

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4093700013		
法人名	有限会社 福岡医療研究所		
事業所名	グループホーム やさしい時間		
所在地	〒822-1241 福岡県那珂川市後野4丁目10番5号		TEL 092-952-6563
自己評価作成日	令和 元 年09月03日	評価結果確定日	令和元年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	令和 元 年10月04日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム全体でのユニットの見直しや業務マニュアルの見直しを行いました。職員が不安なく業務に就けるよう「働きやすい職場」を目指すと共に、利用者様にとってのなじみの職員が多く努めて存在し、入居者様が安心して穏やかに過ごせるよう努めてまいります。「ゆっくり、ゆったり穏やかに」を理念とし、自然豊かな地域の中で安心してつらいだ生活が送れるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「やさしい時間」は、認知症高齢者が住み慣れた地域の中で、家族や関係者に支えられながら、最期まで安心して暮らすことのできる事業所を目指し、13年前に開設した、2ユニット定員18名の地域密着型グループホームである。後野公民館や那珂川市中央公民館等、公共施設に近い利便性の良い立地で、運営推進会議に参加の地域代表から情報を得て、公民館で行われるイベントや校区の夏祭り、運動会等に参加して交流を図っている。ホーム提携医療機関による定期的な往診と緊急時の対応、往診クリニックの看護師、訪問看護師との連携で24時間安心の医療体制が整い、看取りもしている。明るい施設長とケアマネージャーを柱に、仲の良い職員がお互いに助け合い、楽しく働く事の出来る環境を整え、利用者や家族に対しても優しく親身に寄り添い、家族の信頼も厚い、グループホーム「やさしい時間」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、ゆったり、穏やかに」の理念に基づき、利用者様の気持ちに寄り添った支援を心がけている。	「馴染みの地域の中で、『ゆっくり・ゆったり・穏やかに』過ごしていただけるようサービスを提供します」を理念として掲げ、見やすい場所に掲示している。職員は、目にする事で、常に理念を意識して実践に繋げている。	理念に沿った介護を実施しているかを振り返ったり、確認する機会を設けて理念の共有に努め、実践に繋げていく事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや運動会など地域の催しに、利用者様や職員が参加し、交流している。包括センター主催のりんごカフェに入居者様と参加し、情報交換や介護相談等、行っている。	ホーム周辺を散歩中に、地域の方と挨拶や立ち話をしている。運営推進会議の委員から情報を得て、校区の夏祭りや運動会、公民館で行われるイベントに参加する等、少しずつ、地域の一員としての交流が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事例紹介や他の事業所と意見交換を行っている。りんごカフェに参加することによって認知症の対応や日頃の介護の実践を紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、ホームでの取り組みなどを報告している。ご家族からあがった意見等参考にしながら地域の方との意見交換を行うと共に、他施設の管理者から助言等もいただき、サービス向上に活かすように努めている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、ホームからは、入居状況や活動内容、ホームの取組を報告し、参加委員からは、質問や意見、要望、情報提供を受け、それらをサービスの向上に活かしている。	会議内容が、報告中心となっているので、避難訓練や勉強会、レクの体験等、内容の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域副区長・地域包括支援センターの方に、運営推進会議に出席していただいている。相談事や事故報告などを迅速に行い、協力関係を築いている。	施設長は、行政担当窓口にも、空き状況や事故等を報告し、分からないことがあれば、頻繁に出向いて尋ねることで、関係を築いている。運営推進会議の地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで身体拘束をせずに支援できるよう話し合い、基本的に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束についても、研修を行い利用者様の希望、意思を尊重し、見守りや声かけを行っている。	スタッフ会議の中で、身体拘束についての研修会を行い、禁止行為の具体的な事例を検証し、確認して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、運営推進会議の中で、身体拘束適正化委員会からの報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議等で研修を行い、身体的、精神的虐待がないよう、職員間で声を掛け合いながらケアをおこなっている。言葉使いなどにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の利用をしておられる方がおり、実際の活用事例を通して制度の理解に努め、資料を配布し職員が理解できるよう努めている。スタッフ会議での勉強会等、今後もっと学ぶ機会をもてるようにしたい。	権利擁護の制度について、スタッフ会議の中で学ぶ機会を設けている。また、現在、制度を活用している利用者がいることで、後見人とのやり取りを通して制度の理解に努めている。制度に関する資料やパンフレットを用意して、必要時には関係機関と協力し、制度を活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は、ご家族の不安や要望などをうかがい、契約書に基づき説明し、理解していただくようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内をご家族に送付し出席を呼び掛けている。また、ご家族が来所された際などに、日々の様子の報告を行うと共に、意見や要望などを伺い反映できるように心掛けている。食事面では、パン食の日が欲しいとの意見があり、日曜日の朝食をパン食にしている。	職員は、日常生活の中で、利用者の意見や要望の把握に努めている。面会時や運営推進会議、行事参加の時に、家族とのコミュニケーションを心掛け、遠方の家族には電話をかけて意見や要望を聴いている。これらの意見や要望をホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッグ会議や日々の業務の中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設け、検討、反映、出来るよう努めている。	月1回10時からスタッフ会議を開催している。多くの職員が参加して、話しやすい雰囲気の中、活発な意見交換が行われている。参加出来ない職員からも事前に意見や提案を聴いている。出された意見は検討し、ホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況の報告を受け、各職員と関わる中で状況を把握するよう努めている。また、各職員が責任や向上心が持てるよう、委員会を設け業務分担しつつ、職員同士が協力しあえる体制づくりを心掛けている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢、経験ではなく、人柄を重視している。また職員がそれぞれの能力を發揮できるよう、個性を尊重し意見交換を行いながら勤務している。産休や子育て中の職員が安心して働く事ができ、復職しやすいよう配慮している。	職員の募集は、性別や年齢、経験等の制限はなく、人柄を重視している。産休からの復職や、子育てをしながら働く職員への配慮等、助け合える雰囲気の中で、職員は定着している。施設長は、職員の得手不得手を把握して、得意分野を活かして働く事が出来るよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の受講や日々のケアの中での意見交換などで、職員の人権教育に努めている。また、利用者様が自分らしく穏やかに過ごせるよう、職員は言葉遣いに注意し支援している。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、スタッフ会議の中で話し合ったり、研修を受講する等して意識づけを行っている。職員は、「ゆっくり・ゆったり・穏やかに」の理念に沿った介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修参加や資格取得がしやすい様勤務の調整を行っている。職員一人ひとりに合った研修に参加し、学んだことをスタッフ会議にて報告しスキルアップを目指している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域の介護事業所との研修会、認知症カフェへ積極的に参加し、同業者と交流する機会を作っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居、契約・アセスメント等にて、入居時には、ご本人やご家族から話をきき、希望や不安をくみ取り職員間で共有し、安心して過ごして頂ける様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や契約時、家族の不安や要望をしっかりときき、何でも気軽に相談できる雰囲気をつくることで、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談、契約時にホームで出来ること出来ないことの説明を行い、その時に必要とされる支援が行えるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来ることは手伝っていただき、洗濯物たたみや茶碗拭きなどの家事や、季節ごとの掲示物作成などを一緒に行う中で、コミュニケーションをとり関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時などに、利用者様の状況を伝えご本人に必要なことやものなどをお互いに把握し、協力できるような関係づくりを心がけている。また必要時には電話にて報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活の中でご本人から昔の話を伺ったり、ご家族などからご自宅におられたときの様子や、好きなこと、趣味などを伺ったりするようにしている。ご家族が友達を連れてこられたり、家につれて帰ったりとなじみの関係が途切れないよう努めている。	近所の方や友人の来訪時には、職員が間に入る等して懐かしい時間を過ごせるよう配慮している。家族が利用者を連れて一時帰宅や外食を楽しむ等、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、おやつ時などに利用者様同士がかかわれる様に支援を行い、共に生活していると思わせるように心がけている。また利用者同士の関係や相性など把握し席の配置等、考慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所になった場合は、病院へ面会に伺ったり、病院への情報提供を行ったりしている。亡くなった場合には、最後のお別れに伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談にて、出来る限り本人の希望を伺い対応し、日々の会話や行動などから本人の意向をくみ取れるよう心がけている。	職員は、利用者とのコミュニケーションを取りながら、利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有して、介護サービスに反映させている。意思を伝えることが困難な利用者には、家族に相談したりアセスメントを見直し、利用者寄り添って、思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境の把握に努め、ご本人やご家族の話、病院等からの情報を元に、フェイスシートやケアプランを作成し、情報の共有、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	茶碗拭きや洗濯物たたみなどの生活リハビリやレクリエーションを通じて、その方の体調や心身状態を把握するように努め、気づいたこと注意すべきことを申し送りノートやミーティングなどで共有し現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のホーム内の様子や状況を話し合い、必要であれば主治医、看護師等の意見を伺いながら、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員やケアマネージャーは、利用者や家族の意向を把握し、スタッフ会議の中で職員の意見を出し合って話し合い、必要時には主治医、看護師の意見を聴いて、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の状態が変化した時には、その都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきなどを記録、申し送りノートにて伝達を行い、職員間で情報を共有し、介助や対応方法の検討、見直しに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族、職員からの支援に関する意見がでた場合などは、希望・状況に応じその都度話し合い、職員間で連携し臨機応変な対応を心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや体育祭・七夕のイベント行事に参加したり、地域の行事に呼んでいただいたりしながら、生活を楽しむ支援を心がけている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の病状や体調の変化を把握し、ご家族の希望を伺いながら、往診や病院受診を受けられるように支援している。またご家族に意思や意見が取り入れられるよう支援している。	入居前に、利用者や家族の希望を聴いて主治医を決めている。現在3名が入居前からのかかりつけ医を希望され、家族が受診に同行している。ホーム提携医による月2回の往診と緊急時の対応、往診クリニックの看護師、訪問看護との連携で安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態の変化や異常を見逃さないようにし、訪問看護師や往診クリニックの看護師に報告を行っている。急変時なども24時間連絡できる体制が整っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が出来るよう、ホームでの状況を伝えたり、面会に伺ったり、退院に向けてご家族や病院関係者と話し合いを設けたりし、情報交換や相談が出来る関係を築いている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期については、出来るだけ早い段階でご家族や医師と話し合いを行い、ホームで出来ること、出来ないことを説明し、どのような選択をすればご本人が最期までその人らしく生活ができるか、ご家族と話し合い支援できるよう取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期の方針について、ホームで出来る事、出来ない事について説明を行っている。利用者の重度化に伴い、状況が変わる度に、家族や関係者で話し合い、希望があれば、看取りの支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成。定期的にミーティングにて確認・把握し、それに沿って行動できるようにしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を実施しているスタッフ運営推進会議で区長や副区長と話し合いをしながら、地域との協力体制をしっかりと築いていきたい。	年2回、消防署の参加を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、避難場所の確認を行っている。前回、公民館館長の参加も得られ、地域との協力体制を築いている。災害時に備えて、非常食、飲料水等を準備している。	夜間を想定した訓練を繰り返し行うことと、地域の避難場所としてホームを開放する等、相互協力に向けた取組を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時や入浴時など羞恥心に配慮し、穏やかな言葉遣いを意識したケアを行っている。またその方の気持ちに寄り添った声掛けが出来るよう気をつけている。	スタッフ会議や申し送り時等の機会に、利用者の人格を尊重した介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者の個性やこれまでの生活習慣にも配慮しながら、それぞれに寄り添った言葉かけが出来るよう取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については周知徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行い、ゆっくりとしたコミュニケーションが出来るよう利用者様の希望を聞きだせるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の話をしっかり傾聴し、その日の体調などに合わせて、ゆっくりご自分のペースで過ごせるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には鏡の前で髪を整えたり、寒い時期にはホットタオルを提供し顔を拭いたり、季節に合った衣類を職員と一緒に選んだりし、身だしなみが整えられるよう支援している。着替え等に関しては、毎日下着・衣類の着替えを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の状況、状態に合った食事形態での提供や、好きなものの提供が出来るようにしている。食前にはテーブルを拭き、食後には食器洗い、食器拭きを職員と一緒にやっている。	モバイル食を利用しているが、汁物作りや盛り付け、炊飯はホームの台所で行っている。献立によっては、急遽一品作って添えたり、敬老会やクリスマス会では、手作りの豪華な食事を提供し、おせちも手作りして、利用者大変喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を介護記録のチェック欄に記入し、職員間での情報を共有し、必要に応じて食事や水分の調整を行っている。利用者様の嚥下状態を考慮し常食・刻み・トロミ・ミキサー食など一人ひとりに合った食事を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医、歯科衛生士の指導の下、毎食後にケアを実施している。必要な方には口腔ケアスポンジや歯間ブラシを使用し清潔保持に努めている。夜間は義歯を預かり、超音波洗浄を実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツを使用されている方でも、日中はリハビリパンツを使用し、出来る限りトイレで排泄できるよう声かけ誘導し支援している。布パンツも使用している。	利用者が重度化しても、トイレで排泄する事を基本とし、ほとんどの利用者が日中は布パンツにパットで過ごし、その方に合わせたタイミングでトイレ誘導を行っている。夜間帯もトイレに誘導する方が半数、ポータブルトイレを使う方等、一人ひとりの状態に合わせて柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を行い、排泄パターンの把握に努めている。運動や水分摂取でも排便が困難な場合は、主治医に相談し下剤の服用もある。牛乳提供・腹部マッサージも行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否などが見られる場合には、時間帯や職員を変更するなどし、気持ちよく入浴していただけるように対応している。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮しながら、2日に1回は入って貰えるよう支援している。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が代わって声掛けし、無理強いせず、利用者の気持ちを優先した支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように配慮しながら、必要に応じて日中の休息が取れるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員がいつでも確認できるようにし、新しく処方された場合などは、どのような薬か、どのような副作用があるか等を申し送り、職員に周知するように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみなど、その方が出来ることを手伝っていただいたり、歌や体操、塗り絵などのレクリエーションを行ったりしている。天気の良い日に散歩や外出をして気分転換が出来るよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	つきに1度は季節に応じた場所や食事に行けるよう外出支援を行っている。ご家族と買い物や外出に出かけることもある。	季節の花見や地域の行事や活動に出かけたり、近所を数人ずつ散歩し、地域の方と挨拶したり会話を楽しんでいる。また、おやつを食べに出かけたり、回転寿司を食べに行く等、一人ひとりの状態に応じた外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には、散歩や外出の際に、希望があればジュースやおやつを購入するなどの支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次ぎ、ホールや居室でゆっくり話せるよう努めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール空間や居室の温度調節などに配慮している。また、外出や行事の写真や、季節に合わせたものを掲示している。	室内には、利用者と職員が制作した作品や利用者の笑顔の写真を掲示して、明るく家庭的な雰囲気の共用空間である。利用者の家族が手入れに足しげく通い、季節毎に花々が楽しめる中庭を眺めることも利用者の楽しみである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やホールのソファの位置・利用者の方の相性や好みを考慮しながらなど、その人が心地よく過ごせるよう考えてセッティングしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を使用したり、ご家族、ペットなどの写真を飾ったりし、心地のよい空間になるよう心がけている。	入居前に、利用者、家族と話し合い、利用者の使っていた家具や身の回りの物、家族の写真等、大切な物を持って来てもらい、これまでの自分の部屋と変わらないように整え、本人が安心して過ごせるよう工夫している。重度の方が多くなっているため、安全にも配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来ることを把握し、自分で動けるよう物の配置を検討したり、トイレには張り紙をし安全に移動できるよう配慮している。		